

京都府社会福祉法人経営者協議会

第1回 社会貢献事業特別委員会

平成26年1月7日(火) 16:00~17:30
ハートピア京都 8階会館会議室

協議事項

(1) 検討委員会について

① 正副委員長と追加メンバーについて

高齢	櫛田 匠 (みねやま福祉会) 荻野 修一 (松寿苑) 石井 大輔 (十条龍谷会)
障害	磯 彰格 (南山城学園) 矢野 隆弘 (松花苑)
保育	中江 潤 (京都基督教福祉会) 杉本 一久 (宇治福祉園)

その他シンクタンク、学識など

《決定内容》

- ・委員長 : 荻野 修一
- ・副委員長 : 矢野 隆弘

【主な意見】

- ・毎年きちっと続けていけるような事業にするため、数字的などところをコンサルティング等の企業の方にも参加してもらえないか。
- ・学識の方にも客観的に意見がもらいたい。

《決定内容》依頼できる企業、学識の方を調査し、次回検討する。

② 事業開始のスケジュールについて

【主な意見】

- ・厳しい状況に対し実践を通して社会福祉法人の姿勢を示す必要がある。国のあり方検討会(5月)までに京都の動きを一定伝えられるようにすべき。
- ・気持ちは4月からでも開始したいところ。来年度途中の開始でも構わない。
- ・事業の実施主体は、経営協よりも府社協の方が種別に関わらず呼びかけられるのではないか。事業の内容としても市町村社協とも一緒にやっていくようなことを考えたい。
- ・経営協事務局をもつ府社協の体制に関わることであるので、4月末までに大きな方向性を決める必要がある。

《決定内容》事業実施要綱(案)を作成し、次回検討。早い段階で、第三者に意見を求める。目標としては、事業の大枠(内容・体制・予算規模等)を4月末までに決定できるよう進める。

(2) 京都府経営協としての社会貢献事業の取り組み

…資料NO.1 (大阪)、資料NO.2 (神奈川)

方向性 (例)

- ・ 困窮者支援
- ・ 中間的就労支援
- ・ 子どもの環境支援
- ・ ひきこもり支援

【主な意見】

- ・ 方向性の例はそれぞれ必要なこと。また、事業所によってはサービスに関わらず支援している。それらを連携させていくことができないか。
- ・ それぞれの法人の事業をアピールできるよう、この事業におけるアウトリーチの出先機関としての展開など仕組みを検討しては。
- ・ 大阪や神奈川のように各協力法人が相談窓口となるという体制は必要。ただし、相談業務の担当者が抱え込むのではなく、地域のネットワークを構築し、活用した上で、隙間に対して支援するという形が重要では。
- ・ 全ての会員が足並みをそろえては難しい。最初は手挙げ制だろう。現在の社会福祉法人の優遇措置に関わるから、社会貢献事業をするのではなく、自分達が地域における必要な役割を担うという使命を果たすという姿勢でやっていきたい。
- ・ 保育関係者は目の前の制度改革で手一杯な状況。なかなか協力してもらいにくい状況。社会貢献よりもコミュニティ作りの方がわかりやすい。保育の事業モデルを検討しては。
- ・ 非会員に対する呼びかけも同時に行っていく。

(3) その他

- ・ この検討委員会の取り組みについては、見える化を図り、議事録などを開示する。
- ・ 次回：2月5日 (水) 10時～11時半 開催予定